



フラダンスの披露もあった芸能発表

夏のおまつり楽しかったね

■第37回中央公民館まつり

公民館主事連絡会主催の「中央公民館まつり」が8月21日、相良公民館で開催されました。

絵画や書道などの生涯学習作品展や、舞踊や大正琴などの芸能発表が行われたほか、参加協力団体による体験コーナーや販売など地域住民による手作りの多彩なイベントが催され、大勢の家族連れなどでにぎわいました。

子ども縁日で射的やヨーヨー釣りをしたり巨大しゃぼん玉作りに挑戦するなど、子どもたちは夏の日を楽しんでいました。

23年ぶりに伝統行事が復活

■相良灯籠流し

8月15日、萩間川の湊橋付近で灯籠流しが行われました。これは相良灯籠流し実行委員会（伊藤剛好委員長）が「先祖への感謝の思いを表す日本のよき伝統を復活させたい」と23年ぶりに復活させたものです。

午後6時過ぎ、実行委員の手によって浮かべられた灯籠は集まった市民らに見守られながら、ゆっくりと川面を流れていきました。

灯籠を購入した金額の一部は義援金として市を通じて、福島県南相馬市へ送られました。



多くの市民が橋の上から幻想的な眺めを楽しみました

放射能を正しく知って正しく対処

■原子力防災学習会

市では8月31日、相良総合センターで原子力防災学習会を開催しました。

第一部ではテレビにも多数出演し、活躍されている中部大学の武田邦彦教授を講師に迎えて基調講演が行われ、放射線の数値をレントゲンの回数に例えるなどユーモアを時折交えたお話で、満員の来場者は熱心に聞き入っていました。

第二部では市長がコーディネーターを務め、武田教授と静岡大学の山本義彦名誉教授との対談が行われました。



数字を使って分かりやすく説明する武田教授



県知事（中央右）と市長を囲む女性団体連絡協議会の皆さん

牧之原市の魅力を発信しよう

■男（ひと）と女（ひと）のフォーラム

市女性団体連絡協議会（琴野朝子会長）主催の第1回「男（ひと）と女（ひと）のフォーラム」が8月25日、相良総合センターで開催されました。

川勝平太静岡県知事による講演「もりあげよう故郷再生」のほか、今野会長がコーディネーターを務め、知事と市長の対談も行われました。

知事は「空港のある牧之原市は大きな潜在力を持ち、21世紀の文明のモデルになる」と語り、今野会長は「美しいまちを私たちでつくっていきましょう」と会場の皆さんに呼び掛けました。



旧細江保育園で行われた倒壊家屋に閉じ込められた人の救出救助訓練

地域ぐるみで地震に備えよう

■県総合防災訓練

東海地震発生時の初動対応を検証する県総合防災訓練が8月28日、牧之原市など4市町を中央会場に行われました。

警戒宣言などの発表のないまま地震が突然発生する「突発型」を想定しての訓練には12,502人の市民が参加。地震発生の際に同時に続々と近くの高台や公共施設に避難し、避難経路や避難場所までの所要時間を再確認しました。

他にも、市内各所で自衛隊や消防署、海上保安庁などによる津波漂流者や倒壊家屋からの救出救助、ヘリコプターによる負傷者の搬送など陸、海、空で具体的な場面を想定したさまざまな訓練が繰り広げられました。

平和の大切さ次世代に伝える

■平和の鐘を鳴らす集い

牧之原区（河合晴和区長）は8月15日、子どもたちに平和の尊さを伝える「平和の鐘を鳴らす集い」を牧之原コミュニティセンターで行いました。旧大井海軍航空隊の飛行場跡地の一角に立地している同センターには同隊で時報として使用された時鐘が「平和の鐘」として保存されています。

元航空隊員の吉田秀雄さん（島田市）が自身の体験をもとに「二度と戦争を起こしてはならない」と呼び掛け、子どもたちは平和の尊さをかみしめ、鐘を打ち鳴らしました。



吉田さんと平和の鐘を鳴らす児童ら



火や煙と格闘しながら飯ごうで米を炊く児童ら

自分の自慢を見つけよう

■第9回細江小学校じまん塾「サマーキャンプ」

細江小学校じまん塾「サマーキャンプ」が8月6日と7日、細江小学校で1年生から6年生までの児童153人が参加して開催されました。縦割りでの共同生活を行うことを通して、児童の自主性や逞しい心を育てるために、毎年行われているものです。

開塾式では参加児童を代表して6年生の鈴木肇史さんが「このキャンプで自分の自慢を見つけよう」とあいさつし、児童らは力を合わせてテント張りや飯ごう炊飯などにチャレンジしました。



広報担当がどこにでも取材に行きます。あなたの身近なホットで楽しい話題やイベントなどの情報をお待ちしています。

秘書広報課 ☎ (23) 0052 ✉ seisaku@city.makinohara.shizuoka.jp